

2018年08月14日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【通貨トルコ・リラの急落】

「夏休み相場」で、なおかつ、現在は「お盆休み」の最中です。

そういった時期に、通貨トルコ・リラが急落して、さまざまなマーケットに波及しています。

まだ、今回の「通貨トルコ・リラの急落」に関して、公式なネーミングはありませんが、いずれ「トルコ・リラ・ショック」とか、「トルコ・ショック」といった名称が付けられるのでしょうか。

新興国通貨に波及しているので、さらに影響が大きくなれば、ネーミングは「新興国通貨ショック」になる可能性もあります。

今回の「通貨トルコ・リラ急落」を、一過性の事件と考えない方が良く、と考えています。

「米国とトルコの対立」を解決するには、時間がかかる、と考えるからです。

「ショック」は、まだ始まったばかりではないか、と危惧しています。

+++++

トルコ・リラ急落の原因は、トルコが米国人牧師を長期に拘束したことで、トルコと米国とが対立していること。

先週末(8月10日)に、米トランプ政権が、トルコの鉄鋼・アルミへの追加関税引き上げを発表したことで、トルコ・リラの売りに拍車がかかりました。

そして、通貨トルコ・リラの急落は、ユーロ/ドルの売り要因になっています。

トルコは、欧州に近いので、マーケットは、地政学的リスクを理由に、「通貨ユーロの売り要因」と考えたのでしょうか。

先週末(8月10日)のマーケットでは、「ユーロ売りドル買い」が進み、下値の重要なチャ

ート・ポイントだった 1.1500 を割り込み、下落しています。

1.1500 を割り込んだ時点で、「売りシグナル」を発した、と考えます。

この「売りシグナル」に従い、下落して、今のところ、ユーロ／ドルの安値は 1.1365 アラウンドを付けています。

下値の重要なチャート・ポイントだった 1.1500 を割り込んだので、ユーロ／ドルは、「下落トレンド」に転換した可能性が高い、と判断します。

言い換えれば、今のところ、安値は 1.1365 アラウンドですが、この安値を更新して、大きく下落する可能性が高い、ということです。

+++++

今回のトルコと米国の対立は、簡単に（短時間で）解決する問題では無い、と考えます。

通貨トルコ・リラ急落は、「他の新興国通貨の売り」に波及しています。

今回のトルコ・リラに関する為替変動は、既に、マーケット（さまざまな市場）に、影響を与えていますが、さらに、これからの米国株式市場、欧州株式市場や、金融市場に、影響を与え続けるのだろう、と考えています。

つまり、一過性の問題では無く、今後のマーケット（さまざまな市場）に、さらに、これから影響が出てくる、と考えます。

+++++

（2018年08月14日東京時間14:20記述）